愛媛大学

# 南予水産研究センター

South Ehime Fisheries Research Center

# 年　報

第１３号　２０２０年度版

# 目　　次


はじめに……2

1.センター組織と研究概要……4

(1)組織の概要……4

(2)各部門の研究概要……5

(3)教職員一覧（2021 年度）……5

2．研究者要覧（専任・兼任教員，特定教員・研究員，客員教員，2021 年度）……8

3．研究プロジェクト（専任教員，特定教員・研究員，2020 年度）……14

4．研究成果（2020 年度，兼任教員は水産関係の成果のみ記載）……17

5．学会及び審議会・委員会等の活動（専任教員・2020 年度）……23

6．教育活動（専任教員・2020 年度）……25

7．地域・社会連携活動（2020 年度）……31

(1)シンポジウム，講演会，展示などの開催（主催，共催，後援等）……31

(2)地域特別研究員との共同研究 ……31

(3)各種行事への参加 ……31

(4)地域連携教育 ……31

(5)一般向け講演等 ……32

(6)一般向け雑誌記事等 ……32

8．新聞記事・テレビ出演等（2020 年度）……34

9．センター視察・来訪者（2020 年度）……35

愛媛大学南予水産研究センター規則……36

愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程……39

愛媛大学南予水産研究センター運営委員名簿……41

愛媛大学南予水産研究センター参与会要項……42

愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿……43

愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項……44

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項……45

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿……46

# は じ め に

南水研が 2017 年度から全力で取り組んできた事業「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築～水産養殖王国愛媛発，『スマ』をモデルとした新養殖産業創出と養殖産業の構造改革～（文部科学省：地域イノベーション・エコシステム形成支援事業)」は，今年度が最終年度となりましたが，昨年から今年にかけて大きな進展がありました。それは，研究開発の中心である「次世代育種システム」の開発が概ね完了したことです。

次世代育種システムとは，完全養殖のサイクルのなかで，「育種」を効率的に行うことを可能にする技術です。育種は，農業や畜産業では古くから行われてきていますが，水産の分野では様々な要因から圧倒的に遅れています。次世代育種システムは，これらの要因を克服し，育種を高速化する技術で，(1)スーパーエリート選抜，(2)生殖細胞バンク，(3)代理親生産，の 3 つの基盤技術から構成されています。詳細な説明は省きますが，要約すれば，(1)で様々な形質（例えば，成長速度，味質，耐病性等々）毎に優れたエリートを選抜し，(2)で各エリートの生殖細胞を凍結保存するとともにそれらに関する詳細なデータ(家系，ゲノム情報，形態，肉質等々）をデータベース化し，(3)で養殖現場のニーズに応じ，保存されたエリートの生殖細胞を用いて代理親によりエリートを再現する，といったシステムです。これらの技術を構成する細部技術のいくつかは特許出願し，さらにシステム全体を「e-Breed」と名付けて商標登録を出願しています。

エコシステム事業の終了後の次年度からは，このシステムを「スマ」で実証し，愛媛の特産品化と養殖規模の拡大に貢献していく計画です。これは，エコシステム事業のタイトルの「『スマ』をモデルとした新養殖産業創出と養殖産業の構造改革」の前半（下線）にあたりますが，さらに重要なのは後半(二重下線）です。スマをモデルとして技術開発を行ってきたのは，この魚が愛媛の特産品になり得る「全身トロ」で「幻の」美味しい魚であるばかりでなく，育種，代理親生産の最も難しいと考えられる魚であるからです。したがって，スマによって完成したシステムは，いくつか個別の技術開発が必要となるにしても，他の養殖魚にも比較的容易に適用できると考えられます。そこで今後は，スマばかりでなくマダイやブリほかの既存の養殖魚種にも e-Breed を適用し，育種により生産者，消費者にとって様々なメリットを追加していくほか，さらに新規の養殖魚種を開発していくことも視野に入れています。

我が国では，多くの人が養殖魚よりも天然魚の方が価値が高いと考えるいわゆる「天然神話」がまだ根強く残っていると思われますが，養殖技術も大きく進み，すでに旬の天然魚に遜色ない味の魚が生産されるようになってきています。また，世界的には天然資源の漁獲が限界となる一方で養殖生産がこれを凌駕する時代となっており，さらに SDGs の理念からも天然資源依存からの脱却が求められています。このように，完全養殖の今後の拡大は必然ですが，南水研が目指しているのは，「育種」を組み込んだ，より「完全」な完全養殖により，水産業を技術において農業や畜産業のレベルに引き上げていくことです。単にこれまで存在していた天然魚と同等のものを養殖によって作り出していくのではなく，より高い価値を持った魚を生産していくという，「養殖産業の構造改革」を目標としているのです。この目標実現に大きく貢献すると考えられるのが次世代育種システム e-Breed で，南水研ではこの技術を社会実装するため本年 1 月にベンチャー企業「(株)Fish Breeding Technology」を立ち上げました。この会社は，「未来の食卓に，よりおいしい魚を」をビジョンとし，養殖産業の構造改革とともに地域水産業の振興に貢献していくことを目指しています。

国立大学法人の第 3 期中期目標・中期計画期間は今年度で終了し，次年度からは第 4 期に入ります。この第 4 期から南水研では，スマ養殖拡大に向けた次世代育種システムの実装，南予地域の主力養殖魚であるマダイへの技術拡大を，上記ベンチャー企業をはじめ地域の養殖企業，種苗生産企

業，水産加工企業と連携して進めていく計画です。また，エコシステム事業等で取り組んできた赤潮・魚病対策技術に関しても実用化を目指します。さらに，新たな基盤的研究として「海洋酸性化問題」に関する取組も開始する計画です。海洋酸性化問題とは，気候変動の原因である $CO_2$ が大気中で増加して海水により多く溶け込むことにより，本来弱アルカリ性である海水が酸性側に変化していくことです。酸性化が進むと，サンゴの骨格や貝殻の主成分である炭酸カルシウムが溶けやすくなります。すなわち，アコヤガイ，ヒオウギガイ，カキ等の養殖，さらにはサンゴや関連する生態系にも影響が出る可能性があるのです。南水研では，次年度より酸性化に関するモニタリングを開始し，すでに県などと協力して宇和海全域に展開している海況情報システム（You See U-Sea）と併せて宇和海の環境変化を注視していきたいと考えています。

ご紹介が後になりましたが，次世代育種システムの開発などに大きく貢献してきた斎藤大樹特定准教授が，本年 9 月より専任の准教授に就任しました。この新たな活力とエコシステム事業等による多くの成果を基盤に，第 4 期が南水研の大きく飛躍する期間となるよう願っています。関係各位におかれましては，引き続きのご協力，ご支援をよろしくお願い申し上げます。

2021 年 11 月

愛媛大学南予水産研究センター
センター長　　武岡　英隆

# 1．センター組織と研究概要

## (1) 組織の概要

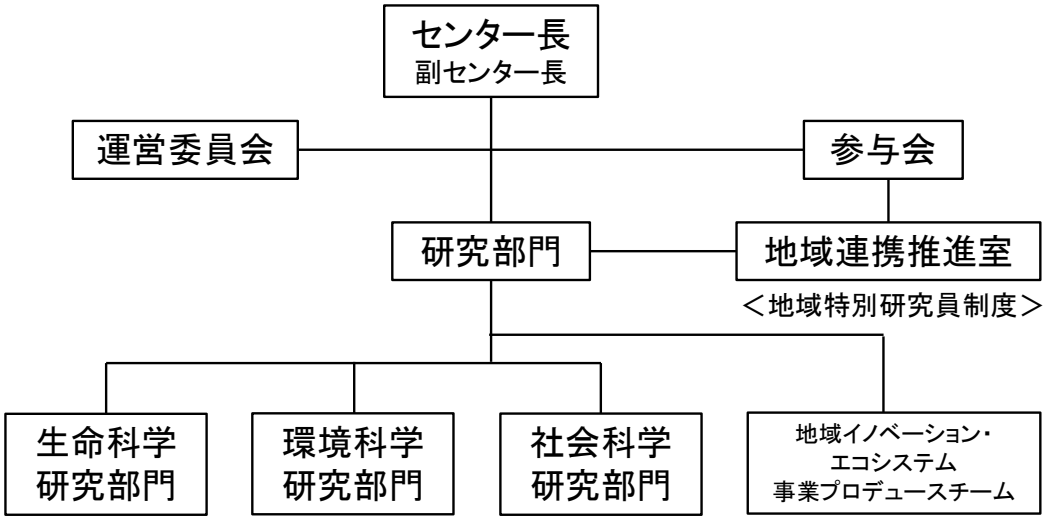
愛媛大学には，学部や研究科などにまたがる横糸的な組織として 4 つの機構（教育・学生支援機構，社会連携推進機構，先端研究・学術推進機構，国際連携推進機構）があります。南予水産研究センター（以下，南水研）は，これらのうち社会連携推進機構に属する研究センターです。社会連携推進機構には現在 13 のセンターがありますが，これらは役割により産学連携推進部門と地域連携推進部門に分類されており，南水研は地域連携推進部門の中で地域産業特化型のセンターに位置づけられています。

南水研は，漁獲量の増大を主に目指した従来の「水産学」ではなく，最先端の生命科学による高度な生産技術の開発，環境科学による養殖漁場環境の保全，社会科学に基づく地域水産業振興システム作りといった，「生命」，「環境」，「地域社会」の三者に軸を置いた独自の「水産学」を目指しています。このため，研究部門は，

(1) 生命科学の視点からのアプローチを目指す「生命科学研究部門」
(2) 環境科学の視点からのアプローチを目指す「環境科学研究部門」
(3) 社会科学の視点からのアプローチを行うとともに生命科学および環境科学研究と地域の橋渡しを目指す「社会科学研究部門」

によって構成されています。また，地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチームは，2017 ～ 2021 年の間，文部科学省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラムにより，南水研が愛媛県と共同で開発した新養殖魚種「スマ」の本格的事業化に向けた活動を推進するチームです。

南水研の組織構成における大きな特徴は，参与会と地域連携推進室の存在です。参与会は，社会連携推進機構長等の学内委員ばかりでなく，地域の自治体や漁業関連団体の代表者等によって構成される組織で，センターの事業や運営に関して地域の意見や助言等を得ることを目的としています（p.42）。地域連携推進室は，これまでの地域連携・研究支援室を廃止して 2018 年度に新たに設置された組織で（p.45），地域のステークホルダーの方にも参加して頂いて南水研の地域連携活動を積極的に企画・推進していくことを目指しています。地域連携推進室は地域特別研究員制度（p.44）も運営しています。この制度は，自治体や漁協の職員の方を地域特別研究員として登録し，受け入れ教員とともに研究を進める制度で，2020 年度は 13 名の方が登録されています。



## (2) 各部門の研究概要

**生命科学研究部門**

水産養殖は，海洋に生息する生物資源を人間の手で制御し，利用する産業です。水産養殖の生産性を向上させるには，対象生物の生理・生態学的特性をよく理解し，それを効率的に利用する技術開発が欠かせません。当部門では，水産養殖生物を生命科学の視点から解析し，生命科学の技術を駆使して，水産養殖の生産性が飛躍的に向上する革新的な技術を開発することを目指しています。特に積極的に行っているのが，「新養殖種および養殖システムに関する研究」です。中でも南方のマグロ類であるスマの完全養殖と新しい育種技術を組み合わせて，これまでにない魚種による新養殖産業の創出と拡大・普及に力を注いでいます。

**環境科学研究部門**

愛媛県南予地域に接する宇和海は，リアス式の複雑な海岸地形を持ち，水深が深く黒潮からの潮の流入も起こり，魚介類の養殖に最適な環境です。さらに，サンゴを育む清浄な海は風光明媚で，足摺宇和海国立公園の海中公園にも指定されています。環境科学研究部門では，このすばらしい環境を守りながら持続的に水産業に利用していくための研究を進めています。現在，赤潮や魚病による被害を抑え，養殖産業へ貢献する「赤潮・魚病対策に関する研究」，地域の環境を活かした「資源・環境の保全と産業創出」に関する研究開発や教育に関する取り組みを進めています。

**社会科学研究部門**

社会科学研究部門は，社会学・文化人類学・経済学・経営学など社会科学的なアプローチにより，持続可能な発展を目指して，適正な水産振興と漁村活性化のシステムづくりを検討し実践する部門です。生命科学および環境科学といった学問と地域の橋渡しを念頭に置きながら，二つの柱となる実証的な研究を推進しています。一つの柱は「水産社会研究」で，社会構造論・生活ネットワーク論，産業文化論・地域文化論の観点から，水産業や漁村における社会構造や生活文化を探求し，その活性化策を提言しています。もう一つは「水産経営研究」で，経済理論（経営論・管理論）をもとに，水産業や漁村におけるマーケティングやマネジメントを検討し，その振興策を提案しています。

## (3) 教職員一覧(2021年度)

センター長： 武岡 英隆

（＊ 2021 年 10 月までに退任した教職員）

**専任教員**

| | | |
|---|---|---|
| 松原 孝博 | 教 授 | 生命科学研究部門（副センター長） |
| 後藤 理恵 | 准教授 | 生命科学研究部門 |
| 斎藤 大樹 | 准教授 | 生命科学研究部門（2021 年 9 月から） |
| 高木 基裕 | 教 授 | 環境科学研究部門 |
| 清水 園子 | 准教授 | 環境科学研究部門 |
| 若林 良和 | 教 授 | 社会科学研究部門 |
| 竹ノ内徳人 | 准教授 | 社会科学研究部門 |

**兼任教員**

| | | |
|---|---|---|
| 菅原　卓也 | 教　授 | 生命科学研究部門（農学研究科） |
| 今村　健志 | 教　授 | 生命科学研究部門（医学系研究科） |
| 高橋　　学 | 教　授 | 生命科学研究部門（社会共創学部） |
| 松枝　直人 | 教　授 | 環境科学研究部門（農学研究科） |
| 小林　真也 | 教　授 | 環境科学研究部門（理工学研究科） |
| 森本　昭彦 | 教　授 | 環境科学研究部門（沿岸環境科学研究センター） |

**特定職員（教員・研究員）**

| | | |
|---|---|---|
| 金尾　聡志 | 教　授 | 地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム |
| ＊斎藤　大樹 | 准教授 | 生命科学研究部門（2021 年 9 月から専任教員） |
| ＊ Miloš　Havelka | 助　教 | 生命科学研究部門（2021 年 10 月から（株）SeeDNA） |
| 西宮　　攻 | 助　教 | 生命科学研究部門 |
| Dipak Pandey | 研究員 | 生命科学研究部門 |
| 竹内　久登 | 研究員 | 環境科学研究部門 |
| 遠藤　　充 | 研究員 | 生命科学研究部門 |

**客員教員**

| | | |
|---|---|---|
| 西永　豊光 | 客員教授 | 地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム（SEN KAI Food Service LLC） |
| 郡司島宏美 | 客員准教授 | 地域イノベーション・エコシステム基盤構築プロジェクト |

**客員研究員**

| | |
|---|---|
| 山木　　勝 | 生命科学研究部門（愛媛県立宇和島水産高等学校教諭） |
| 山下　浩史 | 生命科学研究部門（愛媛県農林水産研究所水産研究センター担当係長） |
| 深田　陽久 | 生命科学研究部門（高知大学農学部准教授） |
| 伊藤　克敏 | 環境科学研究部門（(国研）水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所主任研究員） |
| 藤原　　謙 | 環境科学研究部門（ウミトロン(株)代表取締役） |
| 阿部　　覚 | 社会科学研究部門（(株)ミナトフーズ企画室長） |

**地域特別研究員**

| | |
|---|---|
| 清水　陽介 | 生命科学研究部門（愛南町） |
| 田中　俊也 | 生命科学研究部門（(株）神明水産） |
| 大西　　光 | 生命科学研究部門（大西水産（有）） |
| ＊林　　大地 | 生命科学研究部門（愛南町）（2021 年 3 月まで） |
| 吉原　勇作 | 環境科学研究部門（愛南町） |
| 垣本　一真 | 環境科学研究部門（愛南漁業協同組合） |
| 廣瀬　琢磨 | 環境科学研究部門（愛南町） |
| 濵田　茂樹 | 環境科学研究部門（愛南漁業協同組合） |
| 山本　次郎 | 環境科学研究部門（愛南漁業協同組合） |

| | | |
|---|---|---|
| 兵頭　重徳 | | 社会科学研究部門（愛南町） |
| 高橋　裕司 | | 社会科学研究部門（愛南町） |
| 藤本　吉信 | | 社会科学研究部門（愛南町） |
| 濵　　哲也 | | 社会科学研究部門（愛南町） |
| 猪野啓士郎 | | 社会科学研究部門（愛南町教育委員会）（2021 年 5 月から） |

**事務・技術職員**

| | | |
|---|---|---|
| 西原　良顕 | ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ | 船越ステーション（2021 年 1 月から） |
| ＊渡邉　弘昇 | ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ | 船越ステーション（2020 年 12 月まで） |
| 橋岡　千寿 | 事務補佐員 | 船越ステーション |
| 高橋　瑞穂 | 事務補佐員 | 船越ステーション |
| 中井　優希 | 事務補佐員 | 船越ステーション |
| 日野　真成 | 事務補佐員 | 西浦ステーション |
| 重見　暢子 | 部員 | 地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム |
| 明上奈緒美 | 部員 | 地域イノベーション・エコシステム基盤構築プロジェクト |
| ＊竹田　夏美 | 研究補助員 | 船越ステーション（2021 年 3 月まで） |
| 猪﨑真由美 | 研究補助員 | 船越ステーション |
| 大野祥司郎 | 技術員 | 西浦ステーション |
| 上根　真帆 | 研究補助員 | 西浦ステーション |
| 安部　杏子 | 研究補助員 | 西浦ステーション |
| 清水　優子 | 研究補助員 | 西浦ステーション |

## 2. 研究者要覧(専任・兼任教員，特定教員・研究員，客員教員，2021年度)

**専任教員**

### 武岡　英隆　Takeoka　Hidetaka

**職　　名**：センター長　社会連携推進機構特命教授
沿岸環境科学研究センター(兼任)

**所属学会**：1. 日本海洋学会　2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会　3. 水産海洋学会

**専門分野**：1. 沿岸海洋学　2. 海洋物理学

**研究課題**：1. 沿岸海域の流動と物質輸送　2. 豊後水道の急潮と底入り潮　3. 養殖場の物質循環と環境保全

### 松原　孝博　Matsubara　Takahiro

**職　　名**：副センター長　教授（生命科学研究部門）
社会共創学部　産業イノベーション学科　海洋生産科学コース（兼任）
農学研究科　食料生産学専攻　水圏生産学コース（兼任）
連合農学研究科　生物資源生産学専攻（併任）

**所属学会**：1. 日本水産学会　2. 日本水産増殖学会　3. 日本比較生理生化学会

**専門分野**：1. 水産増養殖学　2. 魚類繁殖生理学

**研究課題**：1. 養殖用新魚種スマの種苗生産・養殖技術の開発研究 2. 地域有用水産生物の増養殖技術開発　3. 魚類の卵形成に関する生化学・分子生物学的研究　4. 魚類の受精における卵－精子相互作用に関する研究

### 後藤　理恵　Goto Rie

**職　　名**：准教授（生命科学研究部門）
社会共創学部　産業イノベーション学科　海洋生産科学コース（兼任）
愛媛大学女性未来育成センター兼務センター員
農学研究科　食料生産学専攻　水圏生産学コース（兼任）
連合農学研究科　生物資源生産学専攻（併任）

**所属学会**：1. 日本水産学会　2. 日本動物学会

**専門分野**：魚類繁殖生理学

**研究課題**：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究　2. マグロ類の新育種技術開発　3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発　4. 魚類性統御技術開発　5. 魚類借腹生産技術開発

### 斎藤　大樹 Saito Taiju

**職　　名**：准教授（生命科学研究部門）

**所属学会**：1. 日本水産学会　2. 日本動物学会

**専門分野**：1. 魚類発生学 2. 魚類発生工学

**研究課題**：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究　2. マグロ類の新育種技術開発　3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発　4. 魚類発生工学技術開発

## 高木　基裕　Takagi　Motohiro

**職　　名**：教授（環境科学研究部門）
農学部　生物環境学科　環境保全学コース（兼任）
農学研究科　食料生産学専攻　水圏生産学コース（兼任）
連合農学研究科　生物資源生産学専攻（併任）

**所属学会**：1. 日本水産学会　2. 日本水産増殖学会　3. 日本魚類学会　4. 日本生物地理学会

**専門分野**：1. 水族保全学　2. 水産育種学

**研究課題**：1. 野生魚介類，放流魚介類の保全・生態研究　2．養殖魚介類の遺伝・育種研究

## 清水　園子　Shimuzu Sonoko

**職　　名**：准教授（環境科学研究部門）
社会共創学部　産業イノベーション学科　海洋生産科学コース（兼任）
農学研究科　食料生産学専攻　水圏生産学コース（兼任）
連合農学研究科　生物資源生産学専攻（併任）

**所属学会**：1. 日本水産学会　2. 日本内分泌撹乱化学物質学会 3. 日本水産増殖学会

**専門分野**：1. 養殖環境学　2．魚病学　3．魚類生理学

**研究課題**：1．ICT を活用した赤潮・魚病対策に関する研究　2．魚病発生メカニズムに関する研究
3. 赤潮発生メカニズムに関する研究

## 若林　良和　Wakabayashi　Yoshikazu

**職　　名**：教授（社会科学研究部門）
副学長（広報担当）
広報室 室長
社会共創学部　産業イノベーション学科　海洋生産科学コース 水産社会学教育分野
教授（併任），コース長
農学研究科　食料生産学科　食料生産学専攻　水圏生産学コース 水産社会学教育分野
教授（併任），コース長
連合農学研究科　生物資源生産学専攻　食料経済学分野　教授（併任）

**所属学会**：1. 日本カツオ学会　2. 地域漁業学会　3. 漁業経済学会　4. 日本食育学会　5. 日本社会学会　6. 日本文化人類学会　7. 日本民俗学会

**専門分野**：1. 水産社会学　2. カツオ産業文化論　3. ぎょしょく教育論（食育実践論）　4. 黒潮文化論　5．社会調査論

**研究課題**：1．水産地域の社会構造（漁村社会の構造的アプローチ）に関する研究
2．水産地域の生活文化（漁村生活の文化的アプローチ）に関する研究
3．水産コミュニティを基盤とした産業振興と地域活性化に関する研究
4．地域性と歴史性からみたカツオの産業と文化に関する研究
5．ぎょしょく教育（総合的水産版食育）・食育のコンテンツとメソッドに関する研究
6．地域誌（史）の視点を重視した漁撈文化と漁場利用に関する研究
7．水産業と漁村の多面的機能をもとにした地域水産振興システムの構築に関する研究
8．定性分析に向けた質的調査としてのフィールドワークの技法と実践に関する研究

## 竹ノ内　徳人　Takenouchi　Naruhito

**職　　名**：准教授（社会科学研究部門）
農学部　生物資源学科　資源・環境政策学専門教育コース（兼任）
農学研究科　食料生産学専攻　水圏生産学コース・食料生産経営学コース（兼任）
連合農学研究科　生物資源生産学専攻（併任）

**所属学会**：1. 漁業経済学会　2. 地域漁業学会　3. 日本沿岸域学会　4. 日本協同組合学会

**専門分野**：1. 水産経済・経営学　2. 水産物マーケティング論　3. 水産物ブランド論

**研究課題**：1. 養殖業経営に関する研究　2. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究　3. 水産物マーケティングに関する研究　4.水産物のブランド化に関する研究

**兼任教員**

## 菅原　卓也　Sugahara Takuya

**職　　名**：教授（農学研究科生命機能学専攻）
学長特別補佐
先端研究・学術推進機構　副機構長（学術企画室　室長）
農学研究科附属食品健康科学研究センター　センター長
農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンター六次産業化部門
学術支援センター　センター長（兼任）
学術支援センター　遺伝子解析部門　部門長（併任）
地域協働センター西条（兼任）
南予水産研究センター生命科学研究部門(兼任)
植物工場研究センター(兼任)

**所属学会**：1. 日本農芸化学会　2. 日本栄養・食糧学会　3. 日本食品科学工学会　4. 日本食品免疫学会　5. 日本アレルギー学会　6. 日本動物細胞工学会　7. The International Society for Nutraceuticals and Functional Foods（ISNFF）

**専門分野**：1. 食品機能学　2. 動物細胞工学

**研究課題**：1. 食品成分の保健機能評価と機能性食品開発に関する研究　2. 柑橘成分の抗アレルギー効果に関する研　4. アカモクの保健機能に関する研究
究　3. 香辛料の抗炎症効果に関する研究　4. 機能性食品開発

## 今村　健志　Imamura Takeshi

**職　　名**：教授（医学研究科分子病態学講座）
副学長（広報担当）
広報室 室長
地域協働センター中予 センター長
先端医療創生センター センター長
プロテオサイエンスセンター（兼任）
南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

**所属学会**：1. 日本癌学会(評議員)　2. 日本がん分子標的治療学会(理事，学術集会会長)　3. 日本骨代謝学会(評議員，あり方委員会委員)　4. 日本整形外科学会(専門医)　5. 日本分子

生物学会　6. 日本生化学会　7. 米国骨代謝学会（ASBMR）

**専門分野**：1. バイオイメージング　2. TGF-β のシグナル伝達　3. がんと骨の生物学

**研究課題**：1. 生体深部観察のための 2 光子励起顕微鏡の開発　2. 広範囲生体高速イメージングのための光シート顕微鏡の開発　3. がんモデルマウスとがんモデルメダカの開発　4. TGF-β ファミリーのシグナル伝達の解析　5. がん転移の分子メカニズムの解析　6. 骨代謝における BMP シグナル伝達の解析

## 高橋　　学　Takahashi Manabu

**職　　名**：教授（社会共創学部産業イノベーション学科）
理工学研究科生産環境工学専攻機械工学コース（兼任）
南予水産研究センター生命科学研究部門(兼任)

**所属学会**：1.日本機械学会学会　2.日本材料学会　3.日本複合材料学会　4.中国・四国工学教育協会　5.日本塑性加工学会

**専門分野**：1. 材料力学　2. 機械材料・材料加工

**研究課題**：1. 水産研究設備および養殖設備周辺技術の開発　2. デジタル技術を用いた水産業への応用

## 松枝　直人　Matsue Naoto

**職　　名**：教授（農学研究科生物環境学専攻）
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

**所属学会**：1. 土壌肥料学会　2. 環境除染学会

**専門分野**：1. 環境保全学　2. 水圏環境学

**研究課題**：1. 土壌鉱物やゼオライトを利用した環境汚染物質の吸着除去　2. 途上国貧困層の飲料水の簡易浄化　3. 養魚場での赤潮被害を抑制する資材の開発

## 小林　真也　Kobayashi Shinya

**職　　名**：教授（理工学研究科情報システム工学専攻）
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

**所属学会**：1. 情報処理学会 2. 電子情報通信学会 3. 電気学会 4.日本工学教育協会 5. 日本感性工学会　6. 日本水産学会　7. IEEE　8. ACM

**専門分野**：1. 情報工学　2. 通信工学

**研究課題**：1. ICT（情報通信技術）の社会応用　2. 分散処理システムに関する研究

## 森本　昭彦　Morimoto Akihiko

**職　　名**：教授（沿岸環境科学研究センター）
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

**所属学会**：1. 日本海洋学会　2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会

**専門分野**：1. 沿岸海洋学　2. 海洋物理学　3. 衛星海洋学

**研究課題**：1. 東シナ海・日本海の物質循環　2. 豊後水道の底入り潮　3. 東南アジアの沿岸域の海洋環境変動

**特定教員**

## 金尾　聡志 Kanao Satoshi

**職　　名**：教授（地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム）
地域イノベーション・エコシステム副事業プロデューサー兼研究開発・知財コーディネーター

**所属学会**：1. 地域漁業学会

**専門分野**：1. 漁業制度論 2. 産業イノベーション論（水産）3. 水産経済・経営学

**研究課題**：1. スマ養殖経営収支モデルの作成　2. スマ養殖におけるビジネスモデルとプラットフォームに関する研究　3. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究

## Miloš Havelka

**職　　名**：助教（生命科学研究研究部門）

**所属学会**：1. 日本水産学会

**専門分野**：Aquaculture genetics and genomics

**研究課題**：1. Genomic resources of kawakawa 2. Sea water tolerance in amago salmon

## 西宮　攻 Nishimiya Osamu

**職　　名**：助教（生命科学研究部門）

**所属学会**：　1. 日本水産学会

**専門分野**：　1. 水族繁殖生理学

**研究課題**：　1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究

**研究員**

## Pandey Dipak

**職　　名**：特定研究員（生命科学研究部門）

**所属学会**：　1. 日本水産学会　2. American Fisheries Society

**専門分野**：　1. 魚類繁殖生理学　2. 魚類免疫学

**研究課題**：　1. 魚類の内分泌に関する研究　2. スマの種苗生産に関する研究　3.　PIT-タグによる魚の初期幼生のラベリング　4. TALEN と CRISPR を用いた魚のゲノム編集

## 遠藤　充　Mitsuru Endoh

**職　　名**：特定研究員（生命科学研究部門）

**所属学会**：　1. 日本水産学会　2. 水産育種研究会

**専門分野**：　1. 遺伝育種学　2. 発生生物学

**研究課題**：　1.　スマ未分化生殖細胞の効率的選択分取方法の開発　2.　スマ借腹宿主の妊性抑制に関する新技術開発

## 竹内　久登　Takeuchi Hisato

**職　　名**：特定研究員（環境科学研究部門）

**所属学会**：　1. 日本魚病学会　2. 日本水産学会

**専門分野**： 1. 魚病学　2. 魚類免疫学

**研究課題**： 1. 魚病病原体の検出手法に関する研究　2. 魚病細菌の性状に関する研究　3. 赤潮の早期発見技術開発研究

**客員教員**

## 西永　豊光　Nishinaga Toyomitsu

**職　　名**：客員教授（SEN KAI Food Service LLC 社長）
地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム　事業プロデューサー

**専門分野**：1. 養殖魚の海外市場調査　2. 水産物のロジスティク及び販売促進

## 郡司島　宏美　Gunjishima Hiromi

**職　　名**：客員准教授
地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム　人材育成担当

**所属学会**：都市住宅学会

**専門分野**：1. 住居学　2. まちづくり

**研究課題**：大学生の男女共同参画意識について

# 3. 研究プロジェクト（専任教員，特定教員・研究員，2020年度）

## センター共通

1. 「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築」―水産養殖王国愛媛発，「スマ」をモデルとした新養殖産業創出と養殖産業の構造改革，文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」（2017 ～ 2021 年度），137,520 千円（2019 年度）

## 松原孝博

【科 研 費】

1. 基盤研究 A：in vivo 選抜育種による魚類育種の加速化実現．平成 28– 令和 2 年度．1,000 千円（分担）
2. 基盤研究 B: 生殖系列キメラを用いた海産魚配偶子生産システム構築に向けた宿主開発.平成 29– 令和 2 年度，500 千円（分担）．

【受託研究】

1. 愛媛県　令和元年度伊予の媛貴海養殖安定化技術開発．親魚管理および出荷技術開発．1,000 千円（代表）
3. 農林水産省 令和元年度イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ，スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発．研究分担．令和元－ 3 年度．7,019 千円（分担）

## 後藤理恵

【科 研 費】

1. 基盤研究 B：生殖系列キメラを用いた海産魚配偶子生産システム構築に向けた宿主開発．平成 29– 令和 2 年度，2,000 千円（代表）
2. 基盤研究 A: in vivo 選抜育種による魚類育種の加速化実現.研究期間:平成 28– 令和 2 年度. 1,000 千円（分担）．

【受託研究】

1. 農林水産省 令和元年度イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ，スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発.研究統括.令和元-3 年度. 7,019 千円（代表）．

## 斎藤大樹

【科 研 費】

1. 基盤研究 A：in vivo 選抜育種による魚類育種の加速化実現，平成 28– 令和 2 年度，100 千円（分担）
2. 基盤研究 B：生殖系列キメラを用いた海産魚配偶子生産システム構築に向けた宿主開発，平成 29– 令和 2 年度，400 千円（分担）

【受託研究】

1. 農林水産省 令和元年度イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ，スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発．課題 1-3 筋肉の品質に影響する物性と遺伝性優良形質の探索と選抜，令和元－ 3 年度．3,900 千円（分担）．
2. 愛南町　愛南町における新規養殖魚開発に係る研究開発．研究費合計 1,538 千円．

## 高木基裕

【科研費】

1. 基盤研究 C：絶滅危惧貝類ドロアワモチの生息環境・生態および分類に関する研究．1,200 千円（代表）

【受託研究】

1. イノベーション創出強化研究推進事業　応用研究ステージ　クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発．農林水産省，6,154 千円（分担）
2. 愛南町漁港区域内宇和海特殊海中資源群現況調査．愛南町，243 千円（代表）
3. 愛媛県指定天然記念物現状変更許可申請にかかる意見書．愛媛県，66 千円（代表）
4. 那賀川のアユに関する DNA 分析．徳島大学，615 千円（代表）

## 清水園子

【共同研究】

1. 愛南町・愛南漁協・久良漁協「愛南町海域における赤潮・魚病早期検知および発生予測システムの開発」
2. 愛媛大学理工学研究科・愛媛大学社会連携推進機構，愛媛県水産研究センター「双方向通信を用いた赤潮・魚病対策のための『水産情報コミュニケーションシステム』の開発」
3. 愛媛県「養殖魚の感染性疾病予防システム構築のための基盤研究」
4. 愛媛大学農学部環境産業応用化学研究室，社会連携推進機構紙産業イノベーションセンター「新規赤潮防除剤の研究開発」
5. 水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所，九州大学，愛南町，愛南漁協「環境汚染がおよぼす養殖魚への影響の実態調査-環境調和型養殖システムの構築を目指した湾内全域徹底検討」

【受託研究】

1. （代表）愛南町受託研究，令和 2 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」，2,100 千円
2. （分担）令和 2 年度水産庁委託漁場環境改善推進事業のうち栄養塩，赤潮，貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発「(2) 赤潮被害防止対策技術の開発」．760 千円
3. （代表）令和 2 年度愛媛大学社会共創学部プロジェクト経費　「海洋環境への負荷を低減したシート型赤潮防除剤の開発」1,000 千円

【民間助成金】

1. （代表）一般社団法人ヤンマー資源循環支援機構助成金　令和 2 年～ 3 年度「養殖魚の血液を用いた低侵襲性魚病早期発見マーカーの開発」1,100 千円

## 若林良和

【科 研 費】

1. カツオを題材とした水産版食育の実践的研究　－「ぎょしょく」の体系化とツール開発－，令和元年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）・（一般），780 千円（2018 ～ 2022 年度：総額 4,160 千円），（代表）

## 竹ノ内徳人

【共同研究】

1. スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発のうち「課題 2-(3)高精度有害物質測定

及び安全性検証，農水省，800 千円（分担）

2. 新生活様式に対応した機能性食品の開発，株式会社オーシャンドリーム，431 千円（代表）

## 竹内久登

【研究助成】

1. 病原体感染が魚類の生体物質放出に及ぼす影響の解明，公益財団法人日本科学協会 2020 年度笹川科学研究助成，740 千円（代表）

# 4. 研究成果（2020年度）

（兼任教員は水産関係の成果のみ記載）

## 生命科学研究部門

【著 書】

1. Reproduction in Aquatic Animals: From Basic Biology to Aquaculture Technology. Chapter 16 Specificity of Germ Cell Technologies in Sturgeons. In: Yoshida M, Asturiano JF (eds.): 335-356, 2020, Springer. Martin Pšenička, Taiju Saito.
2. Japanese Marine Life. Development of Marine Fish: Several Procedures for the Observation of Embryonic Development. In: Inaba K, Hall-Spencer JM (eds.): 125-148, 2020, Springer. Etsuro Yamaha, Rie Goto, Taiju Saito, Eisuke Takahashi, Takahiro Matsubara, Katsutoshi Arai.

【学協会誌】

1. Hideo Takahara, Rie Goto, Taiju Saito, Yasunori Sakurai. Mode of infection with larval anisakid nematodes in the Japanese flying squid, *Todarodes Pacificus* (Cephalopoda: Ommastrephidae). International Journal of Innovative Studies in Aquatic Biology and Fisheries, 6(3): 16-22 (2020).
2. Mitsuru Endoh, Fumika Shima, Miloš Havelka, Rei Asanuma, Etsuro Yamaha, Takafumi Fujimoto, Katsutoshi Arai. Hybrid between Danio rerio female and Danio nigrofasciatus male produces aneuploid sperm with limited fertilization capacity. PLOS ONE, 15(5): e0233885 (2020).
3. Yuki Naya, Tomoka Matsunaga, Yu Shimizu, Eisuke Takahashi, Fumika Shima, Mitsuru Endoh, Takafumi Fujimoto, Katsutoshi Arai, Etsuro Yamaha. Developmental potential of somatic and germ cells of hybrids between *Carassius auratus* females and *Hemigrammocypris rasborella* male. Zygote, 28(6): 470-481 (2020).
4. Hiroyuki Yoshikawa, Yasuko Ino, Kenta Kishimoto, Hayato Koyakumaru, Taiju Saito, Masato Kinoshita, Yasutoshi Yoshiura. Induction of germ cell-deficiency in grass puffer by dead dnd 1 gene knockdown for use as a recipient in surrogate production of tiger puffer. Aquaculture, 526: 735385 (2020).
5. Kazuhiro Ura, Takahiro Gotoh, Yudai Kitano, Osamu Nishimiya, Yasuaki Takagi. Major yolk protein binds folic acid in a sea urchin. Aquaculture Science, 68(4): 309-315 (2020).
6. Franěk R, Baloch AR, Kašpar V, Saito T, Fujimoto T, Arai K, Pšenička M. Isogenic lines in fish - a critical review. Reviews in Aquaculture, 12(3): 1412-1434 (2020).

【報告書など】

1. 文科省 平成 29 年度地域イノベーションエコシステム形成プログラム.「えひめ水産イノベー-17 -ション・エコシステムの構築」, 事業化プロジェクト中心研究者.担当:コア技術 1 ～ 3.令和２年度報告書.2021 年 3 月.
2. 農林水産省 令和元年度 イノベーション創出強化研究推進事業 応用ステージ, スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発.令和元年度報告書.2021 年 3 月.

【学会発表，各種講演・報告など】

1. 遠藤祐助, 藤本貴史（北大院水）, 斎藤大樹, 後藤理恵, 松原孝博, 山羽悦郎. 半数体始原生殖細胞の細胞選別と移植技術の改善, 令和 2 年度日本水産学会北海道支部大会, オンライン, 2020 年 12 月 5 日.

## 環境科学研究部門

【学協会誌】

1. Katsutoshi Watanabe, Ryoichi Tabata, Jun Nakajima, Midori Kobayakawa, Masanari Matsuda, Kosuke Takaku, Kazumi Hosoya, Kenichi Ohara, Motohiro Takagi, Nian-Hong Jang-Liaw: Large-scale hybridization of Japanese populations of Hinamoroko, Aphyocypris chinensis, with A. kikuchii introduced from Taiwan. Ichtyological Research, 67, 361-374, 2020 年 7 月
2. 山田裕貴, 氏部崇之, 清水孝昭, 佐藤陽一, 田代優秋, 佐藤仁泉, 池田実, 高木基裕. 徳島県で見出された国内外来由来のオヤニラミ個体群と遺伝的撹乱の懸念. 保全生態学研究 25, 9-23, 2020 年 7 月
3. Motohiro Takagi, Takuya Goto, Takuma Sugaya, Kaoru Hamano: Breeding patterns of kuruma prawn（Marusepenaeus japonicus）under artificial rearing. Aquaculture Science, 68, 221-234, 2020 年 9 月
4. 阪本憲司・徳永隆史・中野優作・池田恵里花・高尾清人・清水則雄・野口大毅・田中麻衣・高木基裕. 瀬戸内海を中心とした西南日本に生息するトビハゼの遺伝的多様性と分化. 水生動物, AA2020-8, 2020 年 10 月
5. Eitaro Sawayama Wataru Kobayashi Hironori Nakao Yuuki Yamada Motohiro Takagi: Polymorphisms of growth- and immune-related genes in cultured red sea bream Pagrus major identified by gene-related DNA markers. Journal of Applied Ichthyology, DOI: 10.1111/jai.14184, 2021 年 2 月
6. 山田裕貴・清水孝昭・高木基裕. 愛媛県に生息するオイカワの集団構造と由来. 水産育種, 50,11-26, 2020 年 3 月
7. 鬼塚 剛, 鈴川 健二, 吉江 直樹, 平井 真紀子, 竹中 彰一, 吉原 勇作, 大西 秀次郎, 清水 園子, 竹内 久登, 太田 耕平, 外丸 裕司, 坂本 節子, 阿部 和雄, 山口 聖, 紫加田 知幸, 山口 一岩, 武岡 英隆. 宇和島湾およびその周辺海域における有害渦鞭毛藻 Karenia mikimotoi の出現特性：赤潮発生年と非発生年の比較. 日本水産学会誌. 87 巻 p144-159. 2021 年 3 月
8. Hirofumi Hinata, Nao Sagawa, Tomoya Kataoka, Hidetaka Takeoka（2020）: Numerical modeling of the beach process of marine plastics: A probabilistic and diagnostic approach with a particle tracking method. Marine Pollution Bulletin, 152, 110910.
9. Hirofumi Hinata, Kazuki Ohno, Noa Sagawa, Tomoya Kataoka, Hidetaka Takeoka（2020）: Numerical modeling of the beach process of marine plastics: 2. A diagnostic approach with onshore-offshore advection-diffusion equations for buoyant plastics. Marine Pollution Bulletin, 160, 111548
10. 武岡英隆（2020）：豊後水道の急潮と底入り潮. 沿岸海洋研究, 58-1, 19-43.

【報告書など】

1. 高木基裕, 基盤研究 C：絶滅危惧貝類ドロアワモチの生息環境・生態および分類に関する研究. 令和 2 年度報告書
2. 高木基裕, 農林水産省 イノベーション創出強化研究推進事業 応用研究ステージ クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発. 令和 2 年度報告書
3. 高木基裕, 愛南町 愛南町漁港区域内宇和海特殊海中資源群現況調査. 令和 2 年度報告書
4. 高木基裕, 愛媛県 愛媛県指定天然記念物現状変更許可申請にかかる意見書. 令和 2 年度報告書
5. 高木基裕, 徳島大学 那賀川のアユに関する DNA 分析. 令和 2 年度報告書
6. 清水園子, 愛南町受託研究 令和 2 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」報告書, 2021 年 3 月
7. 清水園子, 令和 2 年度水産庁委託漁場環境改善推進事業のうち栄養塩, 赤潮, 貧酸素水塊に対

する被害軽減技術等の開発「(2) 赤潮被害防止対策技術の開発」. 報告書　2021 年 3 月

8. 清水園子，令和 2 年度愛媛大学社会共創学部プロジェクト経費　「海洋環境への負荷を低減したシート型赤潮防除剤の開発」報告書　2021 年 3 月

9. 竹内久登，病原体感染が魚類の生体物質放出に及ぼす影響の解明．公益財団法人日本科学協会 2020 年度笹川科学研究助成報告書（2020）.

【学会発表，各種講演・報告など】

1. 清水園子, 愛媛県漁業協同組合「赤潮研修会」報告. 愛媛県漁協漁業研修センター, 宇和島市, 2020 年 6 月 30 日

## 社会科学研究部門

【著　　書】

1. 若林良和：はしがき，水産王国えひめの底力,「ぎょしょく教育」で，地域の水産業を元気に！．愛媛大学・松山大学「えひめの価値共創プロジェクト」編（若林良和・市川虎彦 責任編集）大学的愛媛ガイド　昭和堂：i － v，109 － 121，122 － 126（2020.10）

2. 若林良和：遠洋漁船の食事．野林厚志ら編　世界の食文化百科事典　丸善出版：254 － 255（2021.1）

3. 若林良和：日本カツオ学会の軌跡と展望，カツオフォーラムの実施経過と方向性，国土交通省広域的地域間共助推進事業による「カツオがつなぐ絆」活動．日本カツオ学会編　カツオとの「上手な付き合い方」を目指して（日本カツオ学会 10 年史 2011 → 2021）　日本カツオ学会：2 － 5，6 － 14，38 － 41（2021.3）

4. Takenouchi N.　Chapter18：　Recruitment and Training. In: Li, Y & Namikawa, T.（Eds.）In the Era of Big Change: Essays about Japanese Small-Scale Research. TBTI Global Publication Series, St. John's, NL, Canada. 2020. 164-172.

【学協会誌】

1. 竹ノ内徳人：レジデント型研究機関としての地域連携と人材育成, 地域漁業研究, 60 (1), 24-33, 地域漁業学会，2020.

2. 原田幸子・松井隆宏・中原尚知・三宅和彦・笠原雅也・竹ノ内徳人：漁業の協業化・法人化に関する一考察，地域漁業研究，60(2)，100-108，地域漁業学会，2020.

【その他の雑誌】

1. 若林良和：鹿児島県枕崎市におけるカツオの産業と文化＜ 1 ＞　－「ぎょしょく」をもとにした地域モノグラフ(3)－．愛媛大学社会共創学部紀要 4(2)：7-26（2020.09）

2. 若林良和・板敷浩実：鹿児島県枕崎市におけるカツオの産業と文化＜ 2 ＞　－「ぎょしょく」をもとにした地域モノグラフ(3)－．愛媛大学農学部紀要 65：7-18（2020.12）

3. 若林良和：静岡県西伊豆町におけるカツオの産業と文化　－「ぎょしょく」をもとにした地域モノグラフ(4)－．愛媛大学社会共創学部紀要 5(1)：29-46（2021.03）

4. 若林良和・川上哲也：宮古・池間島のカツオ産業文化誌(3)　－「ぎょしょく」魚飾からみた島の村落組織と人間関係－．宮古島市総合博物館紀要 25：1-12（2021.03）

5. 仲道雅輝・井口梓・桐野律子・富永真奈美・徳田明仁・若林良和*：大学広報における学生による情報発信の成果と課題　－「コロナ禍」の中で学生向けプレスリリース研修会を実施して－．大学教育実践ジャーナ ル 20：91 － 98（2021.03）

6. 大橋裕一・仁科弘重・若林良和：地域から信頼され，愛される愛媛大学を目指して　地域産業イノベーション創出と地域活性化を担う社会連携推進機構のセンター群の紹介　第 1 回　愛媛

大学の社会的貢献，そして，社会連携推進機構が目指すものとは．月刊愛媛ジャーナル 33（11）・No.395：42-46（2020.04）

7．竹ノ内徳人：産地における養殖マダイ支援策　BtoB から Bto Ｃへの変化，養殖ビジネス，57（11），8-11，10 月（2020）

【報告書など】

1．若林良和：水圏生産学コースの現状と展望（地域水産業を牽引する中核的な専門人材の育成を目指して）．愛媛大学農学部 120 周年記念事業実行委員会編　愛媛大学農学部百二十周年記念誌．愛媛大学農学部：37（2020.10）

2．竹ノ内徳人：農林水産省令和 2 年度イノベーション創出強化研究推進事業応用ステージ，スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発．令和 2 年度報告書．2021 年 3 月．

【学会発表，各種講演・報告など】

1．若林良和：愛媛大学「地域協働センター中予」設置記念シンポジウム　開会挨拶．愛媛大学南加記念ホール，2021 年 3 月 16 日

2．若林良和：第 36 回愛媛出版文化賞選定理由　奨励賞（第 1 部門　研究・評論）　資源と人々の営み提示　☆「愛媛学を拓く」愛媛大学・松山大学愛媛県南予地域共同研究プロジェクトチーム「チームびやびや」著　創風社出版　発行，松栄印刷　印刷）．愛媛新聞，2021 年 1 月 5 日．

3．若林良和：愛媛出版文化賞　受賞者に聞く⑥　奨励賞（第 1 部門「愛媛学を拓く」（創風社出版）　愛媛大学・松山大学愛媛県南予地域共同研究プロジェクトチーム（「チームびやびや」）著　地域の魅力発掘発信　産業や環境 4 分野収録．愛媛新聞，2021 年 1 月 17 日．

4．若林良和：愛媛出版文化賞　喜びの声　地域貢献へさらなる意欲．愛媛新聞，2021 年 1 月 23 日．

5．若林良和：研究論考など 22 編収録　博物館紀要第 25 号を発刊．宮古毎日新聞，2021 年 3 月 31 日．

6．若林良和：19 人 22 編の論文収録　市総合博物館紀要第 25 号　「ジュゴンの骨製品」「池間のカツオ」など．宮古新報，2021 年 3 月 31 日．

7．竹ノ内徳人：水産物の消費動向とマーケティング，令和 2 年度えひめ水産イノベーション・スキル修得講座，愛媛県宇和島市，8 月（2020）

8．竹ノ内徳人：漁業・養殖・陸上養殖の現状・課題・展望，令和 2 年度情報機構セミナー，東京都（Web オンライン），9 月（2020）

9．竹ノ内徳人：水産物のフードシステムと食育，令和 2 年度食育ステップアップ研修会（オンデマンド形式），愛媛県松山市，1 月（2021）

10．西永豊光・竹ノ内徳人：西永豊光：水産物輸出に関する現状と課題－愛媛県産養殖魚を事例として－，水産物輸出戦略に関する研究会，農水省農林水産政策研究所，東京都（Web オンライン），3 月（2021）

11．西永豊光・竹ノ内徳人：水産物の輸出戦略を考える－国産農水産物の国内外の需要動向を踏まえた供給体制に関する研究－，水産物輸出戦略に関する研究会，農水省農林水産政策研究所，東京都（Web オンライン），3 月（2021）

## 兼任教員（水産関係の成果のみ記載）

### 菅原卓也

【学会発表，各種講演・報告など】

1. Kanayama Y., Kim I.-H., Sugahara T and Nishi K.: Effect of docosahexaenoyl ethanolamide, a metabolite of docosahexaenoic acid, on allergic responses., The 33rd Annual and International Meeting of Japanese Association for Animal Cell Technology（JAACT2020 FUCHU）, Abstract p. 82（November 17-20, 2020 Zoom webinar）
2. 平川泰己・西　甲介・石田萌子・菅原卓也：煮干し酵素処理液の抗アレルギー効果に関する研究, 日本農芸化学会 2021 年度大会, 要旨 4D04-15（2021 年 3 月 18-21 日 オンライン）

### 小林真也

【学協会誌】

1. Development of Seawater Temperature Announcement System for Improving Efficiency of Fishery Industry , Yu Agusa, Takuya Fujihashi, Keiichi Endo, Hisayasu Kuroda, Shinya Kobayashi, Journal of Information and Telecommunication 5（1） 62 – 82. January, 2021

【報告書】

1. 総務省「IoT 利用環境の適正な運用及び整備等に資するガイドライン等策定事業」「洋上を現場とする IoT 機器・サービス実現のための電波特性試験調査」報告書

【学会発表・各種講演・報告など】

1. 海水温予測のための水温情報精度向上を目的とした異常値検出・排除手法の提案，阿草 裕, 遠藤 慶一， 黒田 久泰， 小林 真也，情報処理学会 マルチメディア，分散，協調とモバイル（DICOMO2020）シンポジウム，2020 年 6 月
2. 赤潮への早期対策を目的とした赤潮情報管理システムの開発，河野 利紀，遠藤 慶一，黒田 久泰, 小林 真也，情報処理学会第 83 回全国大会，2021 年 3 月
3. 養殖魚取引における受発注管理システムの開発, 土屋 亨平, 遠藤 慶一, 黒田 久泰, 小林 真也，情報処理学会第 83 回全国大会，2021 年 3 月
4. 遊魚 3 次元位置測定装置による魚の遊泳軌跡測定，山磨 虎多郎, 遠藤 慶一, 黒田 久泰, 小林 真也，情報処理学会第 83 回全国大会，2021 年 3 月
5. 講演「水産業と IoT ―デザイン思考で考えるシステム論―」えひめ水産イノベーション・エコシステム実現のための人材育成 えひめ水産イノベーションスキル修得講座－実践編－ 2020 年 9 月
6. 講演「洋上を現場とする IoT 機器・サービス実現のための実証事業」四国情報通信懇談会 2020 年 12 月
7. 講演「実証試験から見る５ G の利活用」松山商工会議所情報・技術開発委員会 2021 年 3 月
8. 講演「洋上での実証試験を通して見えてきた５ G 利用」新居浜市ローカル５G実証実験公開イベント ローカル５ G 講演会 2021 年 3 月
9. 報告会 「洋上を現場とする IoT 機器・サービス実現のための電波特性試験調査」総務省「IoT 利用環境の適正な運用及び整備等に資するガイドライン等策定事業」成果報告会 2021 年 3 月

### 森本昭彦

【学協会誌】

1．森本昭彦・柴川大雅・滝川哲太郎・平井真紀子・三門哲也・美山透（2021）：豊後水道の沿岸定線観測点における潮流調和定数の推定と残差流の季節変化．沿岸海洋研究，　59(1), 11-20.

【学会発表】

1．森本昭彦・董孟洪・亀田まひろ・柴川大雅・平井真紀子・三門哲也・竹尻浩平・ 郭新宇・武岡英隆：豊後水道における豪雨に伴う沿岸と外洋の海水交換.2021 年 度日本海洋学会秋季大会

2．Tong-U-Dom, S., Morimoto, A., Guo, X., Leng, Q.: Seasonal variations in currents in the Harima-Nada and occurence of the bottom cold water. 2021 年度日本海洋学会秋季大会

# ５．学会及び審議会・委員会等の活動（専任教員・2020年度）

## 武岡英隆

【学協会役職】

1. 日本海洋学会沿岸海洋研究会顧問
2. 瀬戸内海研究会議理事

【各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県アコヤガイ斃死対策検討会委員

## 松原孝博

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 浜の活力再生プラン　愛南地区地域水産業再生委員会委員
2. 愛南町ぎょしょく教育普及委員
3. 環境省　化学物質の内分泌かく乱作用に係る試験法の確立等に関する検討委員
4. 農林水産省　イノベーション創出強化研究推進事業開発研究ステージ　評議委員
5. 愛南漁業協同組合　非常勤監事

## 後藤理恵

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 浜の活力再生プラン　愛南地区地域水産業再生委員会委員
2. 愛南町ぎょしょく教育普及進協議会委員
3. 外国人技能実習制度 JITCO 監査（愛南漁業協同組合）
4. 愛媛県立南宇和高等学校評議員
5. 水産政策審議会企画部会特別委員
6. 農業資材審議会飼料分科会飼料安全部会飼料添加物効果安全性小委員会委員
7. 日本学術振興会特別研究員審査委員

## 高木基裕

【学協会役職（理事・委員等）】

1. 水産育種研究会幹事
2. 日本水産学会中国四国支部幹事
3. 日本水産学会水産増殖懇話会委員
4. 日本水産増殖学会評議員
5. 水生動物編集委員

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県内水面漁場管理委員会委員
2. 愛媛県科学技術振興会議農林水産評価専門部会委員
3. 愛媛県レッドリスト改訂分科会員
4. 愛媛県アコヤガイへい死対策協議会専門部会委員
5. 四国西予ジオミュージアム展示内容検討委員会委員

## 清水園子

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 2020 年度水産動物防疫体制整備モデル事業　愛南町養殖魚類防疫体制整備協議会プログラム作成委員

## 若林良和

【学協会役職（理事・委員等)】

1. 日本カツオ学会　顧問
2. 地域漁業学会　理事
3. 漁業経済学会　理事
4. 日本食育学会　理事
5. 地域漁業学会　学会誌編集委員会　委員
6. 日本食育学会　学会誌編集委員会　委員

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構　国立大学教育研究評価委員会　専門委員
2. 水産庁民間団体補助金交付候補者選定審査委員会　委員
3. 愛媛県愛南町ぎょしょく普及推進協議会　委員
4. 愛媛県愛南町食育推進協議会　委員
5. 愛媛県愛南町食育協働部会　副会長
6. 愛媛県愛南町次世代水産業振興ネットワークシステム推進協議会　委員
7. 愛南町地域水産物緊急販路拡大協議会　委員
8. 愛媛県今治市食育推進協議会　顧問
9. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定推進協議会　委員
10. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定委員会　委員長
11. 鹿児島県指宿市山川水産加工業協同組合女性部　顧問
12. 株式会社テレビ愛媛番組審議会　委員

## 竹ノ内徳人

【学協会役職（理事・委員等)】

1. 漁業経済学会理事
2. 地域漁業学会理事

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県・愛媛海区漁業調整委員会・委員
2. 四国西予ジオミュージアム（仮称）展示内容検討委員会・委員
3. 河原学園教務委員会・委員
4. 徳島県・県有種苗生産施設有効活用実践事業プロポーザル審査委員会・委員長

# 6. 教育活動（専任教員・2020年度）

## 松原孝博

【指導学生】

社会共創学部学生（4 年生）：2 名

大学院農学研究科・修士課程

（主指導）：2 名

（副指導）：1 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：2 件

・スマの活締め方法の最適化および保存時の肉質経時変化

・スマの脱血評価のための指標タンパク高感度測定系の開発

修士論文：1 件

・アオリイカの種苗生産に向けた初期給餌技術及び性分化に関する研究

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，水産生物環境学，社会共創学部
2. 前学期，養殖学，社会共創学部
3. 前学期，水産生物学（主担），社会共創学部
4. 前学期，海洋生産科学Ⅰ（主担），社会共創学部
5. 前学期，海洋生産科学セミナーⅠ（分担），社会共創学部
6. 前学期，水圏生産学特論（分担），社会共創学部
7. 前学期，産業経済論（分担），社会共創学部
8. 後学期，産業イノベーションセミナーⅠ（主担），社会共創学部
9. 前学期，プロジェクト基礎演習（主担），社会共創学部
10. 前学期，プロジェクト実践演習（主担），社会共創学部
11. 後学期，プロジェクト応用演習（主担），社会共創学部
12. 後学期，地域産業調査（分担），社会共創学部
13. 前学期集中，産業技術調査（分担），社会共創学部
14. 後学期，海洋生産科学概論（主担），社会共創学部
15. 後学期，新入生セミナーB（分担），社会共創学部
16. 前学期集中，社会共創演習Ⅰ（分担），社会共創学部
17. 集中，インターンシップ実践（分担），社会共創学部
18. 集中，インターンシップ応用（分担），社会共創学部
19. 集中，次世代水産イノベーション論（主担），社会共創学部
20. 通年，卒業研究（主担），社会共創学部
21. 後学期，水圏生命科学Ⅰ（主担），大学院農学研究科
22. 前学期集中，水圏生命科学Ⅱ（分担），大学院農学研究科
23. 集中，水圏生産学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
24. 集中，水圏生産学実験Ⅰ（分担），大学院農学研究科
25. 集中，水圏生産学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科
26. 集中，水圏生産学実験Ⅱ（分担），大学院農学研究科

## 後藤理恵

【指導学生】

社会共創学部学生（4 年生）: 2 名, （3 年生）: 3 名

大学院農学研究科 • 修士課程

（主指導）: 1 名

（副指導）: 2 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 3 件

・実験的創傷を施したスマ表皮の治癒過程に関する研究

・スマ生殖細胞の細胞分散における酵素処理条件の検討
〜密度勾配遠心法による分画細胞の特性評価〜

・愛媛県愛南町におけるマガキガイの成熟調査及び種苗生産試験

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期, 水産生物学（分担）, 社会共創学部
2. 前学期, 養殖環境保全学（分担）, 社会共創学部
3. 前学期, 海洋生産科学Ⅰ（主担）, 社会共創学部
4. 前学期, 海洋生産科学セミナーⅠ（主担）, 社会共創学部
5. 前学期, 水圏生産学特論（分担）, 社会共創学部
6. 後学期, 水族生理学（主担）, 社会共創学部
7. 後学期, 産業イノベーションセミナーⅠ（分担）, 社会共創学部
8. 前学期, プロジェクト基礎演習（分担）, 社会共創学部
9. 前学期, プロジェクト実践演習（分担）, 社会共創学部
10. 後学期, プロジェクト応用演習（分担）, 社会共創学部
11. 後学期, 地域産業調査（分担）, 社会共創学部
12. 前学期集中, 産業技術調査（分担）, 社会共創学部
13. 後学期, 海洋生産科学概論（分担）, 社会共創学部
14. 後学期, 新入生セミナーB（分担）, 社会共創学部
15. 前学期集中, 社会共創演習Ⅰ（分担）, 社会共創学部
16. 集中, インターンシップ実践（分担）, 社会共創学部
17. 集中, インターンシップ応用（分担）, 社会共創学部
18. 集中, 次世代水産イノベーション論（分担）, 社会共創学部
19. 後学期, 水圏生命科学Ⅰ（主担）, 大学院農学研究科
20. 前学期集中, 水圏生命科学Ⅱ（主担）, 大学院農学研究科
21. 集中, 水圏生産学演習Ⅰ（分担）, 大学院農学研究科
22. 集中, 水圏生産学実験Ⅰ（分担）, 大学院農学研究科
23. 集中, 水圏生産学演習Ⅱ（分担）, 大学院農学研究科
24. 集中, 水圏生産学実験Ⅱ（分担）, 大学院農学研究科

【その他】

1.「マリンチャレンジプログラム 2020 中国・四国大会〜海と日本プロジェクト〜」, 主催 : 日本財団, 一般社団法人日本先端科学技術教育人材研究開発機構, 株式会社リバネス, 2020 年 8 月 23 日, オンライン. 審査員.
2.「集まれ！理系女子」第３回女子生徒による科学研究発表Ｗｅｂ交流会－四国大会－, ノート

ルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校, 2020 年 8 月 29 日, オンライン, アドバイザー.

## 高木基裕

【指導学生】

農学部学生（4 年生）: 1 名

大学院農学研究科・修士課程

（主指導）: 1 名

大学院連合農学研究科・博士課程

（主指導）: 1 名

（副指導）: 1 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：1 件

・御荘湾における絶滅危惧貝類ドロアワモチの生態に関する研究

修士論文：1 件

・徳島県那賀川ダム湖群に生息するアユの遺伝的多様性

博士論文：1 件

・水産種・普通種・絶滅危惧種からみる国内移入魚の遺伝的問題

【担当授業科目（本学関係）】

1. 通年，環境保全セミナー，農学部
2. 通年，水族保全学実習，農学部
3. 通年，卒業論文，農学部
4. 後学期，生物学（分担），農学部
5. 後学期，環境保全学概論（分担），農学部
6. 後学期，水産生物学，農学部・社会共創学部
7. 後学期，環境分子生物学（分担），農学部・社会共創学部
8. 後学期，環境保全学実験 III（分担），農学部
9. 前学期，水圏生産学特論（分担），大学院農学研究科
10. 通年，食料生産学特別演習，大学院農学研究科
11. 通年，食料生産学特別実験・実習，大学院農学研究科
12. 通年，水圏生産学演習Ⅰ，大学院農学研究科
13. 通年，水圏生産学実験Ⅰ，大学院農学研究科
14. 通年，水圏生産学演習Ⅱ，大学院農学研究科
15. 通年，水圏生産学実験Ⅱ，大学院農学研究科
16. 後学期，外書購読，大学院農学研究科
17. 後学期，水圏環境科学 I，大学院農学研究科
18. 前学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
19. 前学期，海洋生産科学 I，（分担），社会共創学部
20. 前学期，海洋生産科学 II，（分担），社会共創学部

## 清水園子

【指導学生】

社会共創学部学生（4 年生）: 1 名

大学院農学研究科・修士博士課程
（副指導）：1 名
大学院連合農学研究科・博士課程
（副指導）：1 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：1 件

・愛南町養殖海域における赤潮殺藻細菌の探索と殺藻機序の解明

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前期　養殖環境保全学（分担）社会共創学部
2. 前期　水産生物学（分担）　社会共創学部
3. 前期　産業技術調査（分担）　社会共創学部
4. 前期　プロジェクト実践演習（分担）社会共創学部
5. 前期　海洋生産科学 I（分担）社会共創学部
6. 前期　海洋生産科学 II（分担）社会共創学部
7. 前期　海洋生産科学セミナー I（分担）社会共創学部
8. 前期　産業イノベーションセミナー II（分担）　社会共創学部
9. 前期　水圏生産学特論（分担）　大学院農学研究科
10. 後期　海洋生産科学概論（分担）　社会共創学部
11. 後期　水族生理学（分担）　社会共創学部
12. 後期　プロジェクト基礎演習（分担）　社会共創学部
13. 後期　プロジェクト応用演習（分担）　社会共創学部
14. 後期　産業イノベーションセミナー I（分担）　社会共創学部
15. 通年　インターンシップ実践（分担）　社会共創学部
16. 通年　インターンシップ応用（分担）　社会共創学部
17. 通年　社会共創演習 I（分担）　社会共創学部
18. 通年　社会共創演習 II（分担）　社会共創学部
19. 集中　次世代水産イノベーション論（分担），社会共創学部
20. 前期　水圏生産学特論（分担），大学院農学研究科
21. 後期　水圏環境科学 II，大学院農学研究科
22. 通年　水圏生産学演習 I　大学院農学研究科
23. 通年　水圏生産学実験 I　大学院農学研究科
24. 通年　水圏生産学演習 II　大学院農学研究科
25. 通年　水圏生産学実験 II　大学院農学研究科

【他大学等での講義】

1. 松山大学　社会学応用特殊講義 愛媛学（分担）

## 若林良和

【指導学生】

大学院農学研究科・修士課程
（主指導・主査）：1 名
大学院連合農学研究科・博士課程
（副指導・副査）：1 名

【担当授業科目（本学関係）】

1．前学期，新入生セミナーA（分担），共通教育（社会共創学部）
2．前学期，社会共創学概論（分担），社会共創学部
3．前学期，プロジェクト実践演習（分担），社会共創学部
4．前学期，産業イノベーションセミナーⅡ（分担），社会共創学部
5．前学期，産業イノベーション論（分担），社会共創学部
6．前学期，質的データの収集と分析（分担），社会共創学部
7．前学期，産業技術調査：集中講義（分担），社会共創学部
8．前学期，産業経済論（分担），社会共創学部
9．前学期，水産社会学，社会共創学部
10．前学期，海洋生産科学Ⅰ（分担），社会共創学部
11．前学期，海洋生産科学セミナーⅠ（分担），社会共創学部
12．前学期，海洋生産科学Ⅱ（分担），社会共創学部
13．前学期，海洋生産科学セミナーⅡ（分担），社会共創学部
14．前学期，農山漁村論（分担），社会共創学部
15．前学期，基礎農業経営経済学（分担），農学部
16．前学期，水産社会論，農学部
17．前学期，水圏生産学特論（分担），大学院農学研究科（水圏生産学コース）
18．前学期，水圏生産学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科（水圏生産学コース）
19．前学期，水圏生産学実験Ⅰ（分担），大学院農学研究科（水圏生産学コース）
20．前学期，水圏生産学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科（水圏生産学コース）
21．前学期，水圏生産学実験Ⅱ（分担），大学院農学研究科（水圏生産学コース）
22．前学期，食料生産経営学Ⅰ（分担），大学院農学研究科（食料生産経営学コース）
23．後学期，フィールドワーク入門（分担），社会共創学部
24．後学期，プロジェクト基礎演習（分担），社会共創学部
25．後学期，プロジェクト応用演習（分担），社会共創学部
26．後学期，産業イノベーションセミナーⅠ（分担），社会共創学部
27．後学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
28．後学期，水圏社会科学Ⅰ，大学院農学研究科（水圏生産学コース）
29．後学期，水圏生産学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科（水圏生産学コース）
30．後学期，水圏生産学実験Ⅰ（分担），大学院農学研究科（水圏生産学コース）
31．後学期，水圏生産学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科（水圏生産学コース）
32．後学期，水圏生産学実験Ⅱ（分担），大学院農学研究科（水圏生産学コース）
33．後学期，水産社会学，大学院農学研究科（食料生産経営学コース）
34．後学期，食料生産経営学Ⅱ（分担），大学院農学研究科（食料生産経営学コース）
35. 後学期，農山村調査（集中・分担），大学院農学研究科（食料生産経営学コース）
36．後学期，水産社会論，大学院人文社会科学研究科（環境・資源マネジメントコース）

【他大学等での講義】

1．高知大学教育学部（社会学概論・社会学，集中）
2．高知大学医学部（家族社会学，集中）
3．松山大学人文学部・経済学部・経営学部・法学部（文化人類学，通年）
4．松山大学人文学部（社会学応用特殊講義・愛媛学(分担)，後学期）
5．松山看護専門学校（文化人類学，後学期）

## 竹ノ内徳人

【指導学生】

農学部学生（3 年生）：0 名

（4 年生）：4 名

大学院農学研究科・修士課程

（主指導）：1 名

（副指導）：1 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：4 件

・地域資源経営の持続可能性創造のためのブランディング研究

・養殖マダイ消費量増加に向けた商品開発

・With コロナの時代における水産業の在り方と展望

・神奈川県における未利用魚とマイナー魚の付加価値向上

修士論文：1 件

・愛媛県産はだか麦の需要拡大に向けた戦略に関する研究

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，専攻セミナーⅡ，農学部
2. 前学期，基礎農業経営経済学（分担）2 年生，農学部
3. 前学期，水産社会科学演習（分担），農学部
4. 前学期，海域社会経済論，農学部
5. 前学期，水産経済論，社会共創学部
6. 後学期，食料生産経営学立案セミナー，農学部
7. 後学期，地域農林漁業論（分担），社会共創学部
8. 後学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
9. 後学期，専攻セミナーⅡ，農学部
10. 前学期，食料生産経営学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
11. 前学期，食料生産経営学Ⅰ（分担），大学院農学研究科
12. 前学期，食料生産経営学演習Ⅲ（分担），大学院農学研究科
13. 前学期，食料生産経営学特別演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
14. 前学期，食料生産経営学Ⅲ（分担），大学院農学研究科
15. 前学期，海洋生産科学研究（分担），大学院農学研究科
16. 後学期，海域社会論，大学院農学研究科
17. 後学期，食料生産経営学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科
18. 後学期，食料生産経営学Ⅳ（分担），大学院農学研究科
19. 通年，食料生産経営学ケーススタディ（分担），大学院農学研究科

【他大学等での講義】

・松山短期大学　「食品マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」（通年）

# 7. 地域・社会連携活動(2020年度)

## (1) シンポジウム，講演会，展示等の開催(主催，共催，後援等)

### センター共通

1. 愛南町水産業振興懇話会　7 月 14 日
2. 愛南町水産セミナー　1 月 27 日
3. 愛南町水産フォーラム　2 月 1 日
4. 南予水産研究センター卒論・修論発表会　2 月 26 日
5. 南予水産研究センター魚介類供養祭　2 月 26 日

## (2) 地域特別研究員との共同研究

| 研　究　題　目 | 地域特別研究員 | 受入教員 |
|---|---|---|
| 新規養殖品種の開発 | 清水　陽介 | 松原　孝博 |
| スマ養殖 | 田中　俊也 | 松原　孝博 |
| 水産物養殖技術の開発 | 大西　　光 | 松原　孝博 |
| 水産養殖技術の開発 | 林　　大地 | 松原　孝博 |
| 魚類養殖現場で発生する病気について | 吉原　勇作 | 清水　園子 |
| 魚類養殖現場で発生する病気について | 垣本　一真 | 清水　園子 |
| 優良アコヤガイ作出に係る技術開発 | 廣瀬　琢磨 | 高木　基裕 |
| 優良アコヤガイ作出に係る技術開発 | 濵田　茂樹 | 高木　基裕 |
| 優良アコヤガイ作出に係る技術開発 | 山本　次郎 | 高木　基裕 |
| 「ぎょしょく」を基盤にした水産振興の研究 | 兵頭　重徳 | 若林　良和 |
| 「ぎょしょく」を基盤にした水産振興の研究 | 高橋　裕司 | 若林　良和 |
| 漁村における地域文化の研究 | 藤本　吉信 | 若林　良和 |
| 町内水産物の販売促進およびブランド化の研究 | 濵　　哲也 | 竹ノ内徳人 |

## (3) 各種行事への参加

1. 南宇和ライオンズクラブ主催海岸清掃ボランティア参加　教職員学生 20 名程度　10 月 10 日

## (4) 地域連携教育

1. ぎょしょく教育体験事業講師（高校生）（松原）7 月 29-30 日
2. 愛南町夏休みこども教室（小学生の自主学習支援）学生 2 名 7 － 8 月
3. 宇和島東高等学校理数科自然科学野外実習講師派遣（高木）8 月 17-18 日
4. 宇和島南中等教育学校 UGI 事業課題研究講師派遣（高木）6 日間
5. ぎょしょく教育出前授業講師派遣（松原ほか）6 日間
6. 中学生 JOB チャレンジ（職場体験実習）受け入れ（御荘中学校）10 月 6 ～ 8 日
7. 中学生 JOB チャレンジ（職場体験実習）受け入れ（城辺中学校）10 月 27 ～ 29 日
8. 自然観察会　八幡浜の魚類・鳥類観察会講師（松山市小学生対象）（高木）12 月 6 日
9. 南宇和高等学校進路座談会参加（学生 7 名）12 月 8 日
10. 南宇和高等学校総合学習講師（高木）2 月 18 日

海洋プラスチックゴミの収集と分別
（宇和島東高等学校）

魚類および無脊椎動物の種同定
（宇和島東高等学校）

水温計の清掃作業
（城辺中学校）

## (5)一般向け講演等

### 竹ノ内徳人

1. 竹ノ内徳人：水産物の消費動向とマーケティング，令和 2 年度えひめ水産イノベーション・スキル修得講座，愛媛県宇和島市，8 月 （2020）
2. 竹ノ内徳人：漁業・養殖・陸上養殖の現状・課題・展望，令和 2 年度情報機構セミナー，東京都（Web オンライン），9 月 （2020）
3. 竹ノ内徳人：水産物のフードシステムと食育，令和 2 年度食育ステップアップ研修会（オンデマンド形式），愛媛県松山市，1 月 （2021）
4. 西永豊光・竹ノ内徳人：西永豊光：水産物輸出に関する現状と課題－愛媛県産養殖魚を事例として－，水産物輸出戦略に関する研究会，農水省農林水産政策研究所，東京都（Web オンライン），3 月 （2021）
5. 西永豊光・竹ノ内徳人：水産物の輸出戦略を考える－国産農水産物の国内外の需要動向を踏まえた供給体制に関する研究－，水産物輸出戦略に関する研究会，農水省農林水産政策研究所，東京都（Web オンライン），3 月 （2021）

## (6)一般向け雑誌記事等

### 武岡英隆

1. 武岡英隆：地域連携と先端研究にもとづく水産振興 - 「養殖産業の構造改革」に挑む南予水産

研究センター．月刊愛媛ジャーナル（2020.10）

## 若林良和

1. 大橋裕一・仁科弘重・若林良和：地域から信頼され，愛される愛媛大学を目指して　地域産業イノベーション創出と地域活性化を担う社会連携推進機構のセンター群の紹介　第 1 回　愛媛大学の社会的貢献，そして，社会連携推進機構が目指すものとは．月刊愛媛ジャーナル 33（11）・No.395：42-46（2020.04）
2. 若林良和：水圏生産学コースの現状と展望（地域水産業を牽引する中核的な専門人材の育成を目指して）. 愛媛大学農学部 120 周年記念事業実行委員会編　愛媛大学農学部百二十周年記念誌. 愛媛大学農学部：37（2020.10）

## 竹ノ内徳人

1. 竹ノ内徳人：産地における養殖マダイ支援策　BtoB から BtoC への変化，養殖ビジネス，57（11），8-11，10 月（2020）

## 小林真也

1. 愛媛経済レポート（2 月 1 日号）「NTT ドコモ四国 愛大と洋上 IoT サービスの試験実施」　2021 年 1 月 25 日

# 8. 新聞記事・テレビ出演等（2020年度）

## 若林良和

1. 第 36 回愛媛出版文化賞選定理由　奨励賞（第 1 部門　研究・評論）　資源と人々の営み提示　☆「愛媛学を拓く」愛媛大学・松山大学愛媛県南予地域共同研究プロジェクトチーム「チームびやびや」著　創風社出版　発行，松栄印刷　印刷）．愛媛新聞，2021 年 1 月 5 日．
2. 愛媛出版文化賞　受賞者に聞く⑥　奨励賞（第 1 部門「愛媛学を拓く」（創風社出版）　愛媛大学・松山大学愛媛県南予地域共同研究プロジェクトチーム（「チームびやびや」）著　地域の魅力発掘発信　産業や環境 4 分野収録．愛媛新聞，2021 年 1 月 17 日．
3. 愛媛出版文化賞　喜びの声　地域貢献へさらなる意欲．愛媛新聞，2021 年 1 月 23 日．
4. 研究論考など 22 編収録　博物館紀要第 25 号を発刊．宮古毎日新聞，2021 年 3 月 31 日．
5. 19 人 22 編の論文収録　市総合博物館紀要第 25 号　「ジュゴンの骨製品」「池間のカツオ」など．宮古新報，2021 年 3 月 31 日．

## 小林真也

1. NHK（2020 年 10 月 27 日）「ローカル 5G」愛媛大などに無線免許交付」
2. あいテレビ（2020 年 10 月 27 日）「愛媛大に「ローカル 5G」免許 養殖現場で実証実験」
3. テレビ愛媛（2020 年 10 月 28 日）「愛媛大・養殖魚の健康 3 次元把握 5G 回線使った全国初の実証実験へ」
4. NHK（2020 年 11 月 13 日）「5G で水産業支援 愛媛大学の挑戦」
5. あいテレビ（2020 年 11 月 18 日）「5G で養殖「いけす」可視化 実証実験スタート」
6. 愛媛朝日放送（2020 年 11 月 19 日）「「5G」で水産業の生産性向上へ」
7. 南海放送（2020 年 11 月 20 日）「いけす内映像 5G 送信 魚類養殖で愛媛大など宇和島で実証実験」
8. NHK（2020 年 12 月 16 日）「5G でいけす映像を送信 実証実験を公開」
9. 日刊水産経済新聞（2020 年 7 月 21 日）「洋上 IoT の利用へ 愛媛大学など養殖イケスで実証」
10. 朝日新聞（2020 年 9 月 19 日）「養殖盛んな宇和海の水産業，情報工学で課題解決」
11. 愛媛新聞（2020 年 10 月 28 日）「ローカル 5G 愛媛大に免許」
12. 日刊工業新聞（2020 年 10 月 30 日）「水産向け 5G 実証試験」
13. 愛媛新聞（2020 年 11 月 20 日）「いけす内映像 5G 送信 魚類養殖で愛媛大など宇和島で実証実験」
14. 日本経済新聞（2020 年 12 月 2 日）「養殖魚の異常や給餌「5G」で把握 愛媛大など実験」
15. 毎日新聞（2020 年 12 月 31 日）「養殖いけすの映像，5G 送信 愛媛大，宇和島で実証実験 生産コスト減へ動き解析」
16. 電波新聞（2021 年 2 月 2 日）「洋上 IoT サービスへの 5G 通信の有効性」
17. 水産タイムス（2021 年 2 月 8 日）「海中映像伝送に成功」
18. 水産新聞（2021 年 2 月 8 日）「ローカル 5G 活用の映像伝送実験に成功」

## その他

1. 愛媛新聞（2020 年 5 月 3 日）「愛南サツキマス今季初出荷　美しい薄紅　上品な味わい」
2. 愛媛新聞（2020 年 10 月 6 日）「愛南スマ給食で応援　県コロナ対策　地元小中に初登場」
3. 愛媛新聞（2020 年 10 月 14 日）「高校生が語る水産業の未来　宇和島で愛媛大講座」

## ９．センター視察・来訪者（2020年度）

| | | 人 |
|---|---|---|
| 2020 年 6 月 10 日 | 愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当） | 1 |
| 2020 年 6 月 11 日 | 愛媛大学社会連携推進機構 | 2 |
| 2020 年 7 月 2 日 | 愛南町教育委員会生涯学習課 | 2 |
| 2020 年 7 月 2 日 | 愛媛県南予地方局愛南土木事務所 | 3 |
| 2020 年 7 月 22 日 | 愛媛大学沿岸環境科学研究センター | 3 |
| ～ 8 月 10 日 | | |
| 2020 年 7 月 29 日 | 愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当） | 1 |
| 2020 年 8 月 26 日 | 愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当） | 1 |
| 2020 年 9 月 10 日 | 愛媛大学社会連携推進機構 | 3 |
| 2020 年 9 月 11 日 | 愛大大学社会共創学部（ものづくりコース） | 5 |
| 2020 年 9 月 11 日 | 愛媛大学社会連携推進機構紙産業イノベーションセンター | 2 |
| 2020 年 9 月 29 日 | 愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当） | 1 |
| 2020 年 10 月 7 日 | 愛南町立城辺中学校（職場体験） | 3 |
| 2020 年 10 月 14 日 | 愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当） | 3 |
| 2020 年 10 月 16 日 | 愛媛大学医学部生（5 回生） | 3 |
| 2020 年 10 月 21 日 | 国立研究開発法人 水産研究･教育機構 瀬戸内海区水産研究所 | 2 |
| 2020 年 10 月 27 日 | 愛南町立御荘中学校（職場体験） | 2 |
| 2020 年 11 月 10 日 | 四国経済産業局産業部産業振興課アルコール室 | 3 |
| 2020 年 11 月 10 日 | 愛媛大学財務部経理調達課調達第一チーム | 2 |
| 2020 年 11 月 16 日 | 愛媛大学社会共創学部生（1 回生） | 33 |
| 2020 年 11 月 30 日 | 愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当） | 3 |
| 2020 年 12 月 11 日 | 愛媛大学社会共創学部 | 3 |
| 2020 年 12 月 22 日 | 愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当） | 3 |
| 2020 年 12 月 24 日 | 愛媛大学教育学生支援部教育企画課総務チーム | 1 |
| 2021 年 1 月 12 日 | 愛媛大学大学院理工学研究科 | 3 |
| 2021 年 1 月 13 日 | 愛媛大学社会連携課南予水産チーム（城北担当） | 3 |
| 2021 年 1 月 14 日 | 愛南町役場水産課 | 1 |
| 2021 年 1 月 25 日 | 愛南町役場水産課 | 3 |
| 2021 年 2 月 1 日 | 愛媛大学大学院理工学研究科 | 1 |
| 2021 年 2 月 2 日 | 三井住友信託銀行 | 1 |
| 2021 年 2 月 3 日 | 愛媛大学社会連携推進機構 | 3 |
| 2021 年 2 月 18 日 | 愛媛県立南宇和高等学校 | 3 |
| 2021 年 2 月 24 日 | 株式会社西村商会、JFE アドバンテック株式会社 | 3 |
| 2021 年 2 月 26 日 | CATV | 1 |
| 2021 年 2 月 26 日 | 愛媛県立宇和島水産高等学校 | 1 |
| 2021 年 2 月 26 日 | 愛媛大学社会連携推進機構 | 2 |

（総訪問者数　110 人）

# 愛媛大学南予水産研究センター規則

平成 19 年 10 月 10 日
規則第　152　号

（趣　旨）

第１条　この規則は，国立大学法人愛媛大学基本規則第３０条第２項の規定に基づき，愛媛県南宇和郡愛南町に置く愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。

（目　的）

第２条　センターは，生命科学，環境科学及び社会科学による学際的な水産学研究の拠点を形成し，先端科学による漁場調査，水産養殖技術開発，水産業振興等について研究及び教育することにより，地域社会からの水産学への要望に応え，地域及び日本の水産業に貢献することを目的とする。

（研究部門）

第３条　前条の目的を達成するため，センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

(1) 生命科学研究部門
(2) 環境科学研究部門
(3) 社会科学研究部門

２　前条の目的を達成するため，必要に応じて，愛媛大学農学部にセンター分室を置くことができる。

（組　織）

第４条　センターに，次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長
(2) 副センター長
(3) 専任教員
(4) 兼任教員
(5) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

（管理機関）

第５条　センターの管理運営に関する重要な事項は，愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議（以下「社会連携推進会議」という。）において審議する。

（運営委員会）

第６条　センターの運営に関する事項を審議するため，センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

２　運営委員会に関する規程は，別に定める。

（センター長）

第７条　センター長候補者は，愛媛大学（以下「本学」という。）の専任教授又は特命教授のうちから社会連携推進会議が推薦し，学長が選考する。

２　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，補欠により任命されたセンター長の任期は，前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第８条　副センター長候補者は，本学の専任の教授のうちから，センター長が当該教授の所属する学部等の長の同意を得て推薦し，学長が選考する。

２　副センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，補欠により任命された副センタ

ー長の任期は，前任者の残任期間とする。
（専任教員）
第９条　専任教員は，社会連携推進会議が推薦し，学長が選考する。
（兼任教員）
第１０条　兼任教員は，本学の専任の教員のうちから，当該教員の所属する学部等の長と協議の上，センター長が学長に推薦し，学長が任命する。
２　兼任教員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，補欠により任命された兼任教員の任期は，前任者の残任期間とする。
（職　務）
第１１条　センター長は，センターの業務を掌理する。
２　副センター長は，センター長の職務を補佐し，センター長が不在又は事故あるときは，その職務を代行する。
３　専任教員は，センター長から指示されたセンターの業務を遂行する。
４　兼任教員は，センターの研究計画に基づき，研究に従事する。
５　センター職員は，センターの業務に従事する。
（顧　問）
第１２条　センターに，顧問を置くことができる。
２　顧問は，センター長の推薦に基づき，社会連携推進機構長が委嘱する。
３　顧問の任期は１年以内とし，再任を妨げない。
（客員教授等）
第１３条　センターに，客員教授又は客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。
２　客員教授等の選考は，国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。
（研究員）
第１４条 センターに，研究員を置くことができる。
２ 研究員は，センターの研究計画に基づき，研究に従事するものとする。
３ 研究員は，本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し，運営委員会の議を経て，学長が任命する。
４ 研究員の任期は２年以内とし，再任を妨げない。
（客員研究員）
第１５　センターに，客員研究員を置くことができる。
２　客員研究員の選考は，愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。
（地域特別研究員）
第１６条　センターに，地域特別研究員を置くことができる。
２　地域特別研究員に関し必要な事項は，別に定める。
（地域連携推進室）
第１７条 センターに，地域連携推進室を置く。
２ 地域連携推進室に関し必要な事項は，別に定める。
（事　務）
第１８条　センターに関する事務は，社会連携支援部社会連携課及び農学部事務課において処理する。
（雑　則）
第１９条　この規則に定めるもののほか，センターに関し必要な事項は，別に定める。

附　則

この規則は，平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成２４年４月１日から施行する。

附　則

この規則は，平成２５年７月２５日から施行する。

附　則

この規則は，平成２５年９月１１日から施行する。

附　則

この規則は，平成２６年６月１１日から施行する。

附　則

この規則は，平成３０年４月１日から施行する。

# 愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程

平成 19 年 10 月 10 日
規則第　153　号

（趣　旨）
第１条　この規程は，愛媛大学南予水産研究センター規則第６条第２項の規定に基づき，愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第２条　運営委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
(2) センターの予算及び決算に関すること。
(3) その他センターの運営に関すること。
（組　織）
第３条　運営委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) センター長
(2) 副センター長
(3) 専任教員
(4) 兼任教員
(5) 社会連携支援部長
(6) その他委員長が必要と認めた者
２　前項第６号の委員は，運営委員会の議を経て委員長が推薦し，学長が任命する。
（委員長）
第４条　運営委員会に委員長を置き，センター長をもって充てる。
２　委員長は，運営委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
（議　事）
第５条　運営委員会は，委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
２　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。
（専門委員会）
第７条　運営委員会は，専門的事項を調査検討するため，専門委員会を置くことができる。
２　専門委員会に関する事項は，運営委員会が定める。

（事　務）
第８条　運営委員会及び専門委員会に関する事務は，社会連携支援部社会連携課において処理する。
（雑　則）
第９条　この規程に定めるもののほか，運営委員会の運営に関し必要な事項は，運営委員会が定め

る。

附　則

この規程は，平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成３０年４月１日から施行する。

# 運 営 委 員 名 簿

| 番号 | 区　分 | 所　属　部　局 | 職　　名 | 氏　　名 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 号委員 | 南予水産研究センター | センター長 | 武　岡　英　隆 |
| 2 | 2 号委員 | 南予水産研究センター | 副センター長 | 松　原　孝　博 |
| 3 | 3 号委員 | 南予水産研究センター | 教授 | 若　林　良　和 |
| 4 | 3 号委員 | 南予水産研究センター | 教授 | 高　木　基　裕 |
| 5 | 3 号委員 | 南予水産研究センター | 准教授 | 竹ノ内　徳　人 |
| 6 | 3 号委員 | 南予水産研究センター | 准教授 | 後　藤　理　恵 |
| 7 | 3 号委員 | 南予水産研究センター | 准教授 | 清　水　園　子 |
| 8 | 4 号委員 | 社会共創学部 | 教授 | 高　橋　　学 |
| 9 | 4 号委員 | 大学院理工学研究科 | 教授 | 小　林　真　也 |
| 10 | 4 号委員 | 大学院医学系研究科 | 教授 | 今　村　健　志 |
| 11 | 4 号委員 | 大学院農学研究科 | 教授 | 菅　原　卓　也 |
| 12 | 4 号委員 | 大学院農学研究科 | 教授 | 松　枝　直　人 |
| 13 | 4 号委員 | 先端研究・学術推進機構<br>（沿岸環境科学研究センター） | 教授 | 森　本　昭　彦 |
| 14 | 5 号委員 | 社会連携支援部 | 部長 | 瀬　野　英　二 |

（2021 年 3 月 31 日現在）

# 愛媛大学南予水産研究センター参与会要項

（設置）

第１条　愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に，センターの事業及び運営に関して助言等を得るため，愛媛大学南予水産研究センター参与会（以下「参与会」という。）を置く。

（組織）

第２条　参与会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 社会連携推進機構長

(2) 大学院農学研究科長

(3) 社会共創学部長

(4) 南予水産研究センター顧問

(5) 南予水産研究センター長及び副センター長

(6) 南予水産研究センター運営委員会委員のうちから社会連携推進機構長が指名する者　若干人

(7) 社会連携推進機構長が委嘱する学外有識者

２　前項第７号の委員の任期は，２年を超えない範囲で社会連携推進機構長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない。

（任務）

第３条　参与会は，センターの事業及び運営に関して，次の各号に掲げる事項を行う。

(1) 地域行政，漁業協同組合等との連携及び地域社会のニーズの発掘についての支援

(2) センターにおける研究，教育等への助言・支援

(3) その他センターの事業及び運営に関する事項

（会議）

第４条　参与会に，座長を置き，社会連携推進機構長をもって充てる。

２　座長は，必要に応じて参与会を招集する。

３　座長に事故があるときは，座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

４　座長は，議題に応じ，関係する本学の職員を参与会に出席させるものとする。

（事務）

第５条　参与会に関する事務は，社会連携支援部社会連携課において処理する。

（雑則）

第６条　この要項に定めるもののほか，参与会の運営に関し必要な事項は，社会連携推進機構長が別に定める。

附　則

この要項は，平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この要項は，平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この要項は，平成２６年１月２７日から施行する。

附　則

この要項は，平成２７年１０月２９日から施行する。

附　則

この要項は，平成３０年４月１日から施行する。

# 愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿

| 氏　　名 | | 所　　属　・　職　　名 |
|---|---|---|
| 愛媛大学 | 仁　科　弘　重 | 社会連携推進機構長 |
| | 山　内　　聡 | 大学院農学研究科長 |
| | 徐　　祝　旗 | 社会共創学部長 |
| | 田　辺　信　介 | 南予水産研究センター顧問（沿岸環境科学研究センター 特別栄誉教授） |
| | 武　岡　英　隆 | 南予水産研究センター長 |
| | 松　原　孝　博 | 南予水産研究センター副センター長 |
| | 若　林　良　和 | 南予水産研究センター運営委員会委員　教授 |
| | 高　木　基　裕 | 南予水産研究センター運営委員会委員　教授 |
| | 後　藤　理　恵 | 南予水産研究センター運営委員会委員　准教授 |
| | 清　水　園　子 | 南予水産研究センター運営委員会委員　准教授 |
| | 高　橋　　学 | 南予水産研究センター運営委員会委員　教授（兼任） |
| | 小　林　真　也 | 南予水産研究センター運営委員会委員　教授（兼任） |
| | 今　村　健　志 | 南予水産研究センター運営委員会委員　教授（兼任） |
| | 菅　原　卓　也 | 南予水産研究センター運営委員会委員　教授（兼任） |
| | 松　枝　直　人 | 南予水産研究センター運営委員会委員　教授（兼任） |
| | 森　本　昭　彦 | 南予水産研究センター運営委員会委員　教授（兼任） |
| | 瀬　野　英　二 | 南予水産研究センター運営委員会委員　部長 |
| 学外有識者 | 岡　原　文　彰 | 宇和島市長 |
| | 清　水　雅　文 | 愛南町長 |
| | 桧　垣　俊　司 | 愛媛県農林水産研究所水産研究センター長 |
| | 平　井　義　則 | 愛媛県漁業協同組合　代表理事組合長 |
| | 立　花　弘　樹 | 愛南漁業協同組合　代表理事組合長 |
| | 竹　田　英　則 | 久良漁業協同組合　代表理事組合長 |
| | 内　倉　長　蔵 | 愛南町議会　議長 |
| | 宇　佐　和　人 | 愛南漁業協同組合　魚類養殖協議会長 |
| | 浅　野　　豊 | 愛南漁業協同組合　真珠貝養殖協議会長 |
| | 濱　田　克　人 | 久良漁業協同組合　魚類養殖協議会長 |
| | 松　下　定　一 | 愛媛県漁業協同組合吉田支所　運営委員長 |
| | 平　井　義　則 | 愛媛県漁業協同組合宇和島支所　支所運営委員長 |
| | 松　本　嘉　晃 | 愛媛県認定漁業士協同組合　理事長 |

（2021 年 3 月 31 日現在）

# 愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項

（趣旨）

第１条 この要項は，愛媛大学南予水産研究センター規則第１６条第２項の規定に基づき，愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に受け入れる地域特別研究員の取扱いに関し，必要な事項を定める。

（受入手続）

第２条 県・市町村の行政機関及び水産業を行っている機関（漁業協同組合等）（以下「派遣機関」という。）の長が地域特別研究員を派遣しようとするときは，センターが別に定める申込書に，派遣機関の長の推薦書及び本人の履歴書を添え，愛媛大学南予水産研究センター長（以下「センター長」という。）に申し込まなければならない。

（受入承認）

第３条 センター長は，愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て，地域特別研究員の受入れを決定し，派遣機関の長へ通知するものとする。

（研究方法）

第４条 地域特別研究員は，センターの専任教員及び兼任教員の指導の下で，センターの研究活動に従事する。

２ 地域特別研究員の研究場所は，センター長が確保するものとする。

（研究期間）

第５条 地域特別研究員の研究期間は，派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき，センター長が決定する。

（報酬等）

第６条 地域特別研究員に対する研究期間中の報酬その他人件費等は，本学からは支給しない。

２ 地域特別研究員に対する調査研究等に係る経費（調査研究旅費を含む。）については，派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき，経費の額を決定する。

（研究料）

第７条 地域特別研究員に係る研究料は，徴収しない。

（研究証明書の交付）

第８条 地域特別研究員が，その研究事項について証明を願い出たときは，センター長は研究証明書を交付する。

（弁償等の義務）

第９条 地域特別研究員は，研究期間中において故意又は重大な過失によりセンターの設備，機械，器具等を亡失又は損傷したときは，速やかに復元し，又はその損傷を弁償しなければならない。

（遵守事項）

第 10 条 地域特別研究員は，この要項に定めるもののほか，センター長の指示に従わなければならない。

（雑則）

第 11 条 この要項に定めるもののほか，地域特別研究員に関し必要な事項は，センター長が別に定める。

附 則

この要項は，平成２０年４月１日から施行する。

附 則

この要項は，平成３０年４月１日から施行する。

# 愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項

（趣旨）

第１条 この要項は，愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）規則第１７条第２項の規定に基づき，愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室（以下「推進室」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。

（業務）

第２条 推進室は，次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 地域からのセンターへの要請に関すること。

(2) センターによる地域連携活動の企画，実施に関すること。

(3) その他，センターの地域連携活動に関すること。

（組織）

第３条 推進室に，次の各号に掲げる職員を置く。

(1) 室長

(2) 室員

ア センターの専任教員

イ 地域のステークホルダー 若干人

２ 室長は，センター長が指名する専任教員をもって充てる。

３ 第１項第２号イの室員は，センター長がその者の所属する機関等の長の同意を得て委嘱する。

（任期）

４ 室長及び室員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，室長及び室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（業務）

第４条 室長は，推進室に関する業務を掌理する。

２ 室員は，推進室の業務を処理する。

（雑則）

第５条 この要項に定めるもののほか，推進室に関し必要な事項は，センター長が別に定める。

附 則

１ この要項は，平成３０年４月１日から施行する。

２ 愛媛大学南予水産研究センター地域連携・研究支援室設置要項（平成２０年４月１日制定）は廃止する。

# 愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿

| 氏　　名 | | 所　　属　・　職　　名 |
|---|---|---|
| 愛媛大学 | 高　木　基　裕 | 南予水産研究センター　教授　　（地域連携推進室長） |
| | 松　原　孝　博 | 南予水産研究センター　教授 |
| | 若　林　良　和 | 南予水産研究センター　教授 |
| | 後　藤　理　恵 | 南予水産研究センター　准教授 |
| | 竹ノ内　徳　人 | 南予水産研究センター　准教授 |
| | 清　水　園　子 | 南予水産研究センター　准教授 |
| 学外有識者 | 岡　田　孝　洋 | 愛南漁業協同組合　販売促進部長 |
| | 濱　田　宗　一 | 久良漁業協同組合　役員 |
| | 和　田　敬　行 | 愛媛県立宇和島南中等教育学校　教諭 |
| | 喜多川　浩　史 | 愛媛県立宇和島水産高等学校　教諭 |
| | 橋　本　孝　之 | 愛媛県立南宇和高等学校　教頭 |
| | 山　口　秀　一 | 愛南町商工観光課　課長補佐 |
| | 尾　川　勝　彦 | 愛南町水産課　水産振興係長 |

（2021 年 3 月 31 日現在）

愛媛大学南予水産研究センター年報編集委員会

| | | |
|---|---|---|
| 委 員 長 | 武岡　英隆 | 南予水産研究センター・センター長 |
| 副委員長 | 松原　孝博 | 南予水産研究センター・副センター長 |
| | 西原　良顕 | 社会連携支援部社会連携課 TL |

愛媛大学南予水産研究センター年報　第 13 号（2020 年度版）

発　行：2021 年 11 月

発行者：愛媛大学南予水産研究センター　船越ステーション

〒 798-4292　愛媛県南宇和郡愛南町船越 1289-1

TEL 0895-82-1022 FAX 0895-82-1026

愛媛大学南予水産研究センター　西浦ステーション

〒 798-4206　愛媛県南宇和郡愛南町内泊 25

TEL 0895-73-7112 FAX 0895-73-7113

愛媛大学南予水産研究センター　松山ステーション（社会連携推進機構）

〒 790-8577　愛媛県松山市文京町 3

TEL 089-927-8145 FAX 089－927-8820

URL http://ccr.ehime-u.ac.jp/cnf/

表紙写真　北灘湾の魚類・真珠養殖場（宇和島市）（撮影者：武岡英隆）